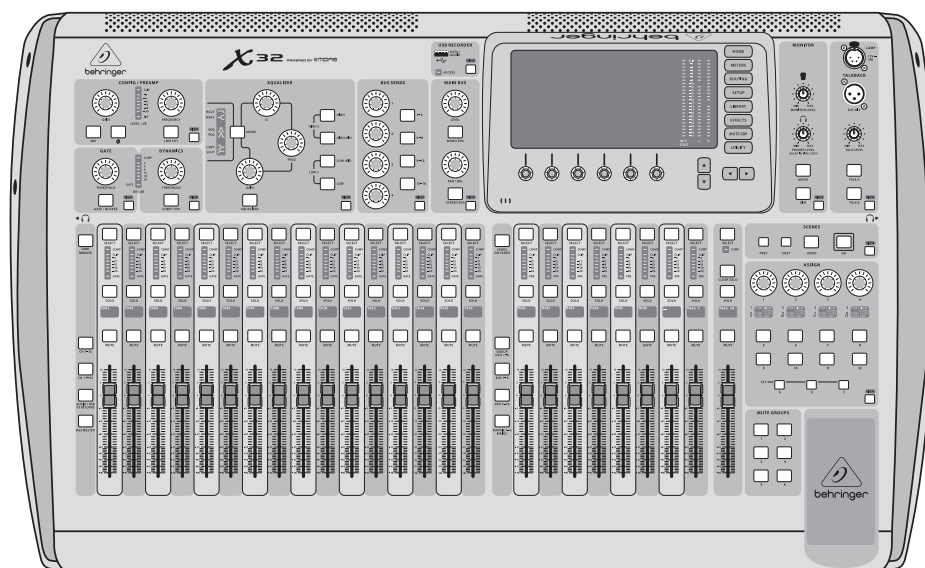




X32 DIGITAL MIXER

40-Input, 25-Bus Digital Mixing Console with 32 Programmable Midas Preamps, 25 Motorized Faders, Channel LCD's, 32-Channel Audio Interface and iPad/iPhone Remote Control

JP

JP

安全にお使いいただくために



注意

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。



注意

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。



注意

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。



注意

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。



注意

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. ニ極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。ニ極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。



14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カート

を使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたできません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

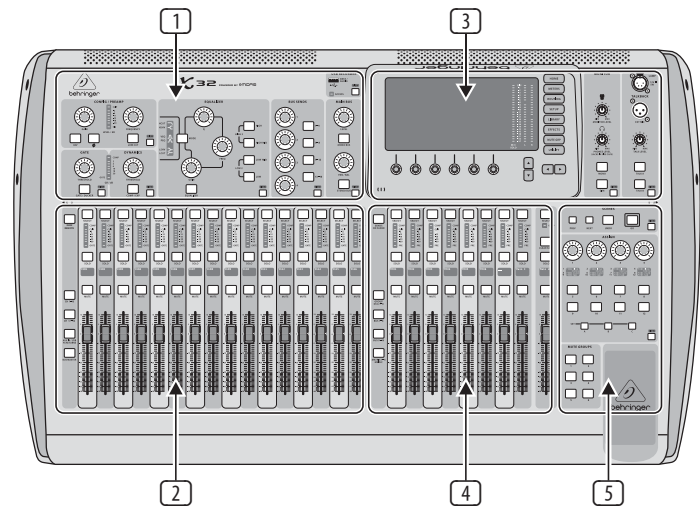
ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2023 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

X32 DIGITAL MIXER はじめに

はじめに



ミキサー操作の概要

ようこそ X32 デジタル ミキシング コンソールのクイックスタートガイドへ! このガイドでは、ミキサーの基本操作を説明し、即座に使用出来るようサポートします。ぜひこのガイドの情報に目を通しながら、コンソールの他の画面や操作を色々と試してみる事をお奨めします。コンソールのユーザーインターフェイスは非常に簡単にナビゲートおよび学ぶことができるように設計されています。behringer.com では英語のユーザーマニュアル PDF をダウンロードおよび閲覧することができます。

ユーザーインターフェイスとスクリーンのグラフィックユーザーインターフェイス操作

X32 のユーザーインターフェイスは 5 つの主要なセクションに分かれています。

- ① チャンネルストリップ
- ② インプットチャンネル
- ③ ディスプレイとモニター
- ④ グループ/バス/メインチャンネル
- ⑤ シーン/アサイン/ミュートグループ

View ボタンとは

コンソールの上部パネルには小さな View ボタンをすぐに見つけることができます。View ボタンは押されたセクションに関連する情報を表示する場合と、コンソールの大型カラーディスプレイ (メインディスプレイ) に切り替える機能があります。

例えばあなたが、イコライザーを編集して EQ の周波数レスポンス曲線または対応する EQ パラメータ値をメインディスプレイで確認したい場合、EQ セクションに隣接する View ボタンを押して下さい。またトークバック信号がルーティングされている場所を確認する必要がある場合は、トークボタンの横にある View ボタンを押すと、メインディスプレイに詳細が表示されます。

View ボタンアプローチは、常に該当する画面に直接行くことができるので、X32 コンソールのメニューのページをめくる必要がほとんどありません

ヒント: メインディスプレイの Setup/Global タブにて、View ボタンと Select ボタンの環境設定を調整可能です。

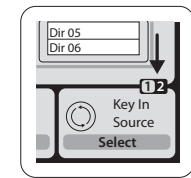
ユーティリティページ X32 のカスタマイズ

メインディスプレイの右側にある Utility ボタンを押してください。ボタンメニューは状況に応じて数多くの機能を表示します。例えば:

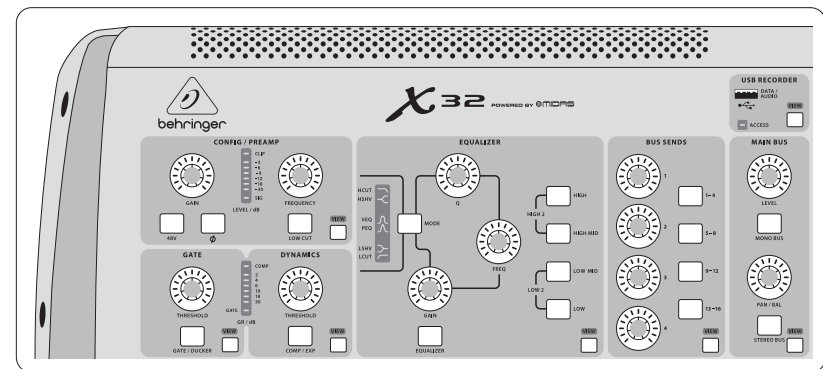
- コンソールチャンネルのイコライザーを調整する場合、Utility ボタンを押すと、イコライザ-設定のコピー & ペースト、ロード / セーブが可能です

- チャンネルのプリアンプ / 設定画面を編集する際には Utility ボタンを押すと設定画面が表示されます。メインディスプレイと小さいチャンネル・ディスプレイの両方にチャンネルの外観をカスタマイズ可能です
- Routing ページでは、Utility ボタンを押すと、ルーティングシナリオの異なるプリセットのロード / セーブが可能です
- Scenes メニューで Utility ボタンを押すと、シーンのコピー、ロード、セーブおよびコンソール名前を設定できます

特定項目の調整



メインディスプレイ上の個々のページのいくつかは、下の 6 つのロータリープッシュエンコーダーによって多くの調整可能なパラメータが含まれています。この場合ページ番号の表示は小さな 1/2 (図参照) だけです。レイヤーを切り替えるには Layer ▲/▼ ボタンを押します。



セクション 1: チャンネルストリップ

X32 のチャンネルストリップは、現在選択されているチャンネルの最も重要な処理を行うパラメータのコントロールです。与えられたチャンネルストリップのコントロールを調整するには、目的のインプットまたはアウトプットチャンネルの Select ボタンを押します。

チャンネルストリップ (例えば、ローカットフィルター、ノイズゲート、EQ、コンプレッサーなど) の特定のセクションでは、それぞれに名称の付いたボタンでオン / オフ可能です。効果が有効であることを示すために点灯しバイパス時には暗くなります。

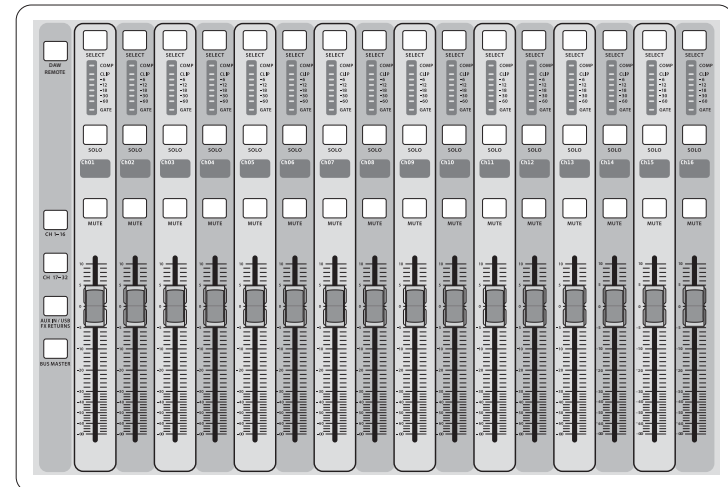
チャンネルストリップ内でアンバーの LED で囲まれたロータリーコントロールノブは、パラメータの値を示します。このバック

ライトリングがオフになっているときには特定の制御 / パラメータが選択したチャンネルタイプには使用できない事を示しています。例えば、アウトプットバスが現在選択されている場合、ゲインノブ周りの LED リングは消灯しています。これはアウトプットバス上では入力ゲインを制御することがないためです。

チャンネルストリップは以下のサブセクションで構成されています:

- Config/Preamp
- Gate, Dynamics
- Equalizer, Bus Sends
- Main Bus

これらの各サブセクションは、現在選択されているチャンネルの処理ステップに対応した独自の View ボタンを持っています。これらが選択された場合、メインディスプレイにそのサブセクションに関連するすべてのパラメータを表示します。



セクション 2: インプットチャンネルバンク

各チャンネルの上には Select ボタンがあり、すべてのチャンネルに関連したパラメーター群 (チャンネルストリップ、メインディスプレイ) をダイレクトにコントロールできるようなユーザーインターフェイスとなっています。常に 1 つのチャンネル (Ch 1-32, Aux 1-8, FX Returns 1L-4R, Mix Bus 1-16, Main LR/C, Matrix 1-6 等) が選択されていることに気をつけてください。尚、DCA グループは複数アサインされたチャンネルをコントロールするので選択できません。

X32 DIGITAL MIXER はじめに

はじめに

コンソールのインプットチャンネルセクションは左側にあり、16 基個々のチャンネルストリップが用意されています。

- CH 1-16: インプットチャンネル 1-16
- CH17-32: インプットチャンネル 17-32
- AUX IN/USB FX RETURNS: Aux インプット 1-6/USB プレイバック / FXリターン 1L-4R

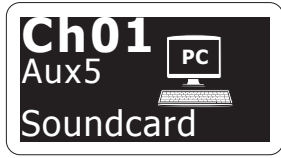
コンソール左側に位置する上記のそれぞれに相当する 3 つのレイヤーボタンはインプットチャンネルバンクを切り替えます。ボタンは点灯し、どのレイヤーが有効になっているかを知らせます。

4 つ目のレイヤー (BUS MASTER) は 16 Mix Bus Masters のレベルを調節します。DCA Group アサインに Bus Masters を含める時に便利です。

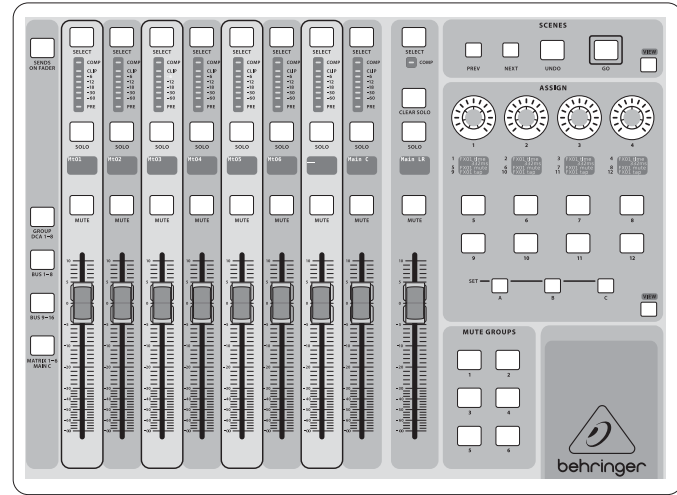
各ストリップはモーターを装備した 100 mm ストロークのフェーダー、Mute ボタン、Solo ボタン、Gate インジケーター、イン

プットレベルメーター、コンプレッサーインジケーター、チャンネル Select ボタンを持っています。

16 インプットチャンネルそれぞれに独自のカラー LCD スクリーンを持ち、チャンネルナンバー、ニックネーム、チャンネルアイコンなどを表示します。この LCD ディスプレイはチャンネルのインプットが切り替えたときなどは新しいインプットソース名を表示してディフォルトセットアップと異なったことを知らせます。



例: Channel 01 は Soundcard のニックネームで Aux インプット 5 から接続されています。



セクション 4: Group/Bus チャンネルバンク

このセクションの 8 基のチャンネルストリップは下記のレイヤーに分かれています。

- GROUP DCA 1-8: 8 DCA (デジタル制御アンプ) グループ

- BUS 1-8: Mix Bus マスタ — 1-8
- BUS 9-16: Mix Bus マスタ — 9-16

- MATRIX 1-6 MAIN C: Matrix Outputs 1-6, メインセンターバス

このセクションにはどのレイヤーやチャンネルバンクがアクティブになっていても機能するメイン LR アウトプットフェーダーがあります。

セクション 3: メインディスプレイエリア

メインカラーディスプレイはコンソールの情報を表示します。View ボタンによって異なったスクリーンやディスプレイサイドの 8 つのボタンで切り替えることができます。

メインディスプレイの上側には常に状況を表示するセクションがあります。左上コーナーにはニックネームとアイコン付の選択されたチャンネル番号、次のブロックには現在のシーン番号と名前、次のシーンがアンバーで表示され、中央のセクションにはプレイバックファイル名およびレコーダステータスアイコン、経過時間と残時間が表示されます。次のブロック右には AES50 ポート A, B のステータス、カードスロットとオーディオクロックシンクのソースとサンプルレート (右上) を 4 セグメントで表示します。緑の小さな四角いインジケーターにより適切な接続がされていることが確認できます。一番右側には Setup/Config で設定可能なコンソールタイムを表示します。

任意スクリーンで作業中ディスプレイ枠にある Page Select キーを押すと異なったスクリーンへと切り替えることができます。

スクリーン上のパラメータを設定および編集するにはディスプレイ下 6 つのプッシュエンコーダーを使います。

- 連続的なコントロールもしくはリスト入力時には回転表示のアイコンが付きます
- 下のフィールドにはトグル機能のある長方形ボタンスイッチがあります。長方形ボタンがアンバーのときはオンもしくは有効に、ダークグレイの時にはオフもしくは無効になっています

モニターとトークバック

このセクションには 2 種のレベルコントロール、1 つはコンソール両サイドのヘッドフォンアウト、もう 1 つはリアパネルにあるモニターアウト用があります。

セクションの View ボタンを押すとヘッドフォンアウトやモニターアウト用のインプットソースの選択などさまざまなモニター設定を編集できます。

また、このセクションには独立した Talkback ボタン (A, B) があります。セクションの View ボタンを押すと独立して Talkback A や Talkback B のパスを編集することができます。そしてブースネックアンプやコンソール内臓のテストトーンジェネレータの設定があります。

セクション 5: 様々なアサイン (DCA グループ、ミュートグループ、カスタムアサインコントロール)

• DCA グループアサイン

個別な 2 つのフェーダーグループ (左: インプット、右: アウトプット) によりバーチャル DCA Group へのチャンネルアサインおよびバスアサインはとても楽な作業となります。コンソールの右サイドの各 DCA グループの Select ボタンを押したまま DCA グループにアサインしたいインプットチャンネルの Select ボタンを押すだけです。また DCA グループ Select 押すとどのチャンネルがすでにアサインされたかをボタンが点灯して知らせます。

• Mute グループアサイン

ミュートグループのアサイン作業は上記と同様ですが、本番中に誤ってオンラインのチャンネルまでミュートされないようにデザインされています。インプット / アウトプットチャンネルを 6 つのミュートグループの 1 つへアサインするには (Main LR フェーダーの右にあるボタン群によってコントロール) まずメインディスプレイと任意の Mute Groups ボタンを押したまま目的のインプット / アウトプットチャンネルを選択します。

• カスタムアサインコントロール:

コンソールの Assign セクションには A, B, C の 3 バンクあり、各セットは 4 基のロータリーコントロールと 8 基のスイッチ / ボタンを持ち X32 の 36 種の機能を自由にカスタマイズすることができます。

カスタムアサインを行うには:

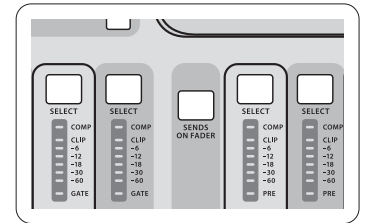
- Assign セクションの View ボタンを押す
- 編集したいコントロールセット (A, B, C) を選択する
- アサインしたい 1 から 12 までのコントロールを選択する
- 機能をアサインもしくはコントロールしたいパラメーターを選択する

通常これは特定のチャンネルパラメータ (例: リードボーカリストリバーブセンドレベルなど) に使用されます。

Jump-to-Page コントロールは特別なタイプの設定で、いかなるオーディオパラメータは変更しませんが特定のディスプレイページへジャンプさせるのに使われます。以前 Jump-to-Page に使われたボタンは各セットボタン (A, B, C) を押したまま目的のアサインボタンを押してゆくことにより簡単に現在のディスプレイビューへ再アサインすることができます。この方法は Assign メニューのジャンプ機能の再アサインよりも手軽に行えます。

“Sends on Faders” 機能

X32 コンソールには 2 つのフェーダーセクション間に “Sends on Faders” 機能を持つとても便利なボタンがあります。



“Sends on Faders” 機能は 16 Mix Buses へ送るチャンネルレベル設定に役立ちます。Mix Buses 1-16 へのチャンネルアサインのみの機能で DCA グループやメインおよびマトリックスバスでは機能しません。“Sends on Faders” は殆どのライブサウンシーンにおいて使える機能です。

特定のミュージシャンへのモニターミックスを準備する

- ステージモニターに接続されているモニターバス (1-8, 9-16) を選択します
- Sends on Faders ボタンを押して点灯させます

X32 DIGITAL MIXER はじめに

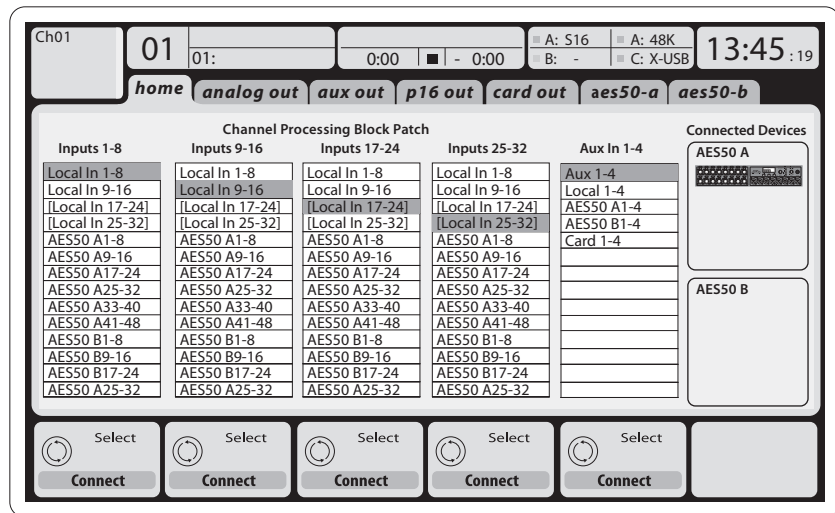
はじめに

- 3 つのインプットチャンネルレイヤー (CH 1-16, CH 17-32, Line-Aux/FX Ret) のうち 1 つを選択します
 - Sends on Faders が有効な間はインプットチャンネルセクションにあるすべてのフェーダー (コンソール左側) は選択されたミックスバス (モニター) のセンドレベルに一致します
 - バスチャンネルレイヤー 1-8 または 9-16 を選択
 - バスフェーダー (コンソール右側) には選択されたインプットチャンネル (コンソール右側) のセンドレベルが現れます
- Sends on Faders 機能ではインプットまたはアウトプットチャンネルを選択することは X32 では特殊です。

注意 – センド・オン・フェーダー (Sends on Faders) ボタンを 1 秒以上長押しすると、機能が有効になり、ボタンは点滅ではなく継続して点灯します。

インプット信号がどこに送られたかを確認および編集する

- 左側セクションのインプットチャンネルを選択する
- Sends on Faders ボタンを押して点灯させます

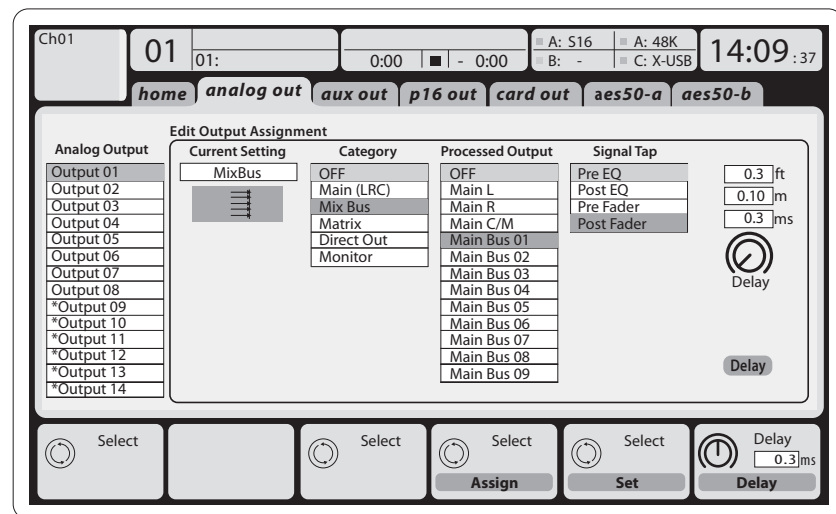


ルーティング I/O

X32 コンソールにはリアパネルに 32 基のマイクプリアンプを装備した XLR インプット、16 基の XLR アウトプット、6 基の TRS Aux センド / リターン、TRS Aux ポートと 48 基のインプットアウトプットそして 32 チャンネル分のインプットアウトプットを扱うことのできる USB 2.0 またはコンピューターインターフェイス用のカードスロットを装備しています。

インプット信号はコンソール内蔵オーディオプロセッシングエンジンにより 8 シグナルブロックのうち 1 つのインプットソースとして扱われます。

注意: オーディオプロセッシングにパッチングされたすべてのシグナルブロックは自動的に対応するインプットチャンネルへ接続されますが、チャンネルパラメーター “Configuration/Channel Source” によって他のチャンネルへ再アサイン可能です。この場合、新しいシグナルソースは小さなチャンネル LCD ディスプレイ上に追加されたラインで表示されます。

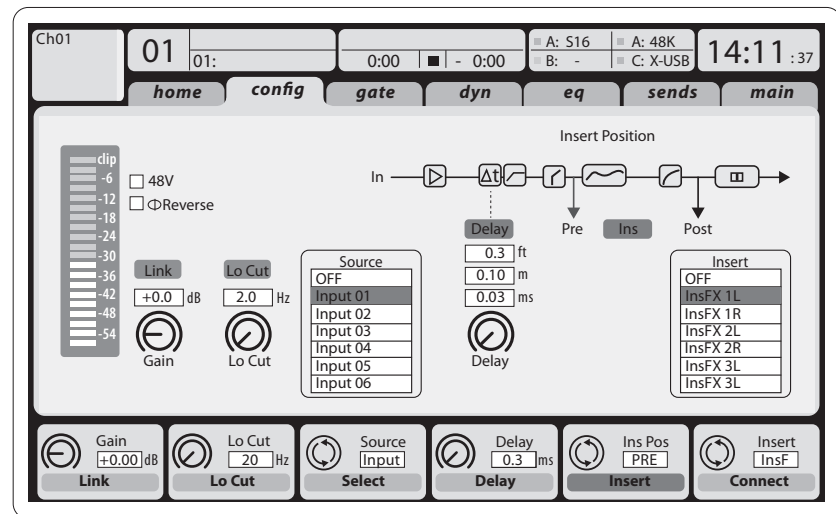


Output Signals は下記のアウトプットへ自由に内部信号をアサインすることができま

- 16 アナログ XLR アウトプット (スピーカー時間差補正用ディレイ機能付)
- 6 AUX センド: 1/4" TRS アウトプット +2 AES/EBU アウトプット
- パーソナルモニターP16 用の Bus アウトプットコネクタ

上記すべてもしくは部分的に信号は 8 シグナルブロックとして下記へミラーリングすることができます。

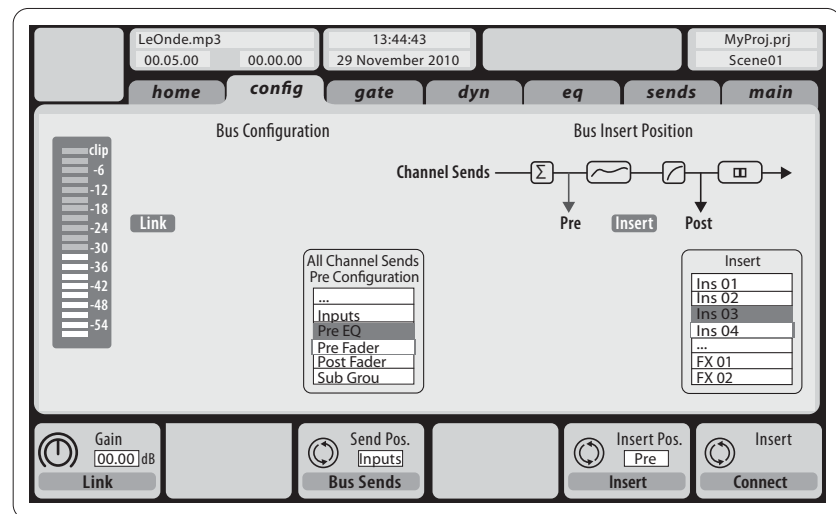
- AES50 ポート A の 48 チャンネル
- AES50 ポート B の 48 チャンネル
- USB インターフェイスカードの 32 チャンネル



インプットチャンネル **1-32** は予め設定された最初のインプット信号ですがコンソール内の利用可能な DSP パッチ信号へもパッチング可能です。

Aux リターン チャンネル **1-8** は予め設定された 6 AUX インプット信号と 2 USB プレイバックアウトプットですがコンソール内の利用可能な信号にもパッチング可能です。

FX Return Channels 1L-4R はサイドチェーン 4 基のステレオアウトプットシグナル FX 1-4 として扱われます。



Mix Bus Channels 1-16 の設定はプリセットが可能で (Setup/Global ページ) 個々またはチャンネル毎に以下の設定が可能です。

- インサートポイント (ポストフェーダー、プリフェーダー切り替え)
- 6 バンド フルパラメトリック EQ
- コンプレッサー / エキスパンダー (ポスト EQ、プリ EQ 切り替え)
- 6 マトリックスへのバスセンド (プリ EQ、ポスト EQ、プリフェーダー、ポストフェーダー、サブグループ)
- Main LR パン
- Mono/Center レベル

X32 DIGITAL MIXER はじめに

はじめに

Main Bus Channels LR/C はミックスバスから独立して常に利用可能です。このシグナルバスの設定は以下の通りです。

- インサートポイント (ポストフェーダー、プリフェーダー切り替え)
- 6 バンド フルパラメトリック EQ
- コンプレッサー / エキスパンダー (ポストEQ、プリ EQ 切り替え)
- 6 マトリックスへのバスセンド (ポストフェーダー)

Matrix Channels 1-6 は MAIN LRC とミックスバス 1-16 信号へ独占して接続されます。設定は以下の通りです。

- インサートポイント (ポストフェーダー、プリフェーダー切り替え)
- 6 バンド フルパラメトリック EQ
- コンプレッサー / エキスパンダー (ポスト EQ、プリ EQ 切り替え)

Effects Processing 1-8

X32 コンソールは 8 つのステレオエフェクトエンジンを搭載しています。

- FX 1-4 はサイドチェーンまたはインサートエフェクトとして設定することができます。FX 5-8 はチャンネルまたはバスのインサートポイントのみで使用することができます
- サイドチェーン FX 1-4 リターンは常に入力チャンネル / Aux/USB/FX リターンの 3 番目のバンクとして制御することができます。FX 1-4 のリターン信号は左右別々のフェーダーを持っていることに注意してください
- FX のホーム画面では各 8 FX スロットのバーチャルラックや FX 1-4 の入力ソースやエフェクトの種類 / アルゴリズムなどを選択できます
- FX 画面の FX 1-FX 8 FX タブでは選択されたエフェクトプロセッサのパラメータの編集を行うことができます

X32 iPad アプリ

Xapp という専用 iPad 用アプリケーションによって、X32 コンソールの多くの機能がリモートコントロールできます。アプリのダウンロード、セットアップと操作についての詳細は X32 製品ページからダウンロードできるユーザーズマニュアルに記載されています。

Xapp ユーザーインターフェイスは iPad のタッチスクリーンに最適化され、コンソールの最も重要なリモート機能に集中しています。アプリを使用するとオーディエンスとまったく同じミックスを聞きながら、ミュージシャンと対話中にステージからモニターミックスを調整したり、オーディエンス側から FOH ミックスを調整することができます。

X32 Windows/OS X/Linux アプリケーション

Windows/OS X/Linux にて動作可能なリモートエディターも提供され、コンピューターホストから X32 の完璧なコントロールが可能となります。アプリのダウンロード、セットアップと操作の詳細は X32 の製品ページからダウンロードできるユーザーズマニュアルに記載されています。

X32 リモートコミュニケーションは OSC (オープンサウンドコントロール) のプロトコルを使用しています。私たちのウェブサイトではディベロッパーが独自のコントロールソフトウェアを開発できるように随時、新しい情報を behringer.com で公開しています。

X-USB エクスパンションカード

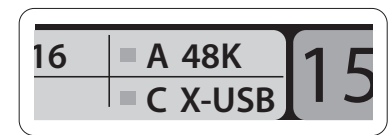
X-USB カードにより最大 32 チャンネルを接続されたコンピューターで送受信することができます。ミキサーをコンピューターと接続する前に behringer.com より X-USB ドライバーとクイックスタートガイドをダウンロードしてください。

スタート、シャットダウン及びアップデート:

最初に X32 ミキサーの電源をオンにしてからスピーカーを接続し、電源をオフにしてからスピーカーを外すことを心がけてください。これはスタートアップ/シャットダウンプロセス中の予期しないノイズ発生より機器を守るためです。

セットアップ画面の一般設定ページでは、Safe Main Levels 機能があります。アクティブにすると、コンソールの起動時には自動的にメイン LRC レベルをミュートします。また、様々なシーンにおいて電源の影響を抑えることができます。

コンソールの同期とサンプルレートは Setup/Config ページで設定することができますが、いかなる変更もコンソールのリブート を要求しますので注意してください。メインディスプレイの上部にある赤い四角の指示が表示されたら、同期設定の Setup/Config が適正となっているかどうかを確認してください。



コンソールを他の誰かによって使用されたり、特定のルーティングの状態についてわからなくなった場合は、次の 2 つの方法で X32 の設定をデフォルト状態にリセットすることができます:

- コンソールが起動し「X32」ロゴがスクリーンに現われたら、Scenes と Undo ボタンを押したままにし、ホームスクリーンが現れてコンソールが完全に使用可能な状態になるまでボタンを離さないでください。コンソールは工場出荷時と同じ状態になります。また、起動後すぐに Scenes/Undo ボタンを押すことにより、コンソールが最後にオフにされたときの状態に戻すことができます
- Setup/Config を押してから、「Initialize」を実行することによってコンソールをいつでも初期化することができます

注意: 初期化することによって現在表示されたデータや、セーブされたシーンは消去しません。すべてのシーンを消去したい時には Setup/Global ページの 'Initialize All Show Data' を使ってください。

ストア操作中に電源が切れたことによるエラーを防止するために、Setup/Global ページの "Safe Shutdown" 機能を使用することをお勧めします。

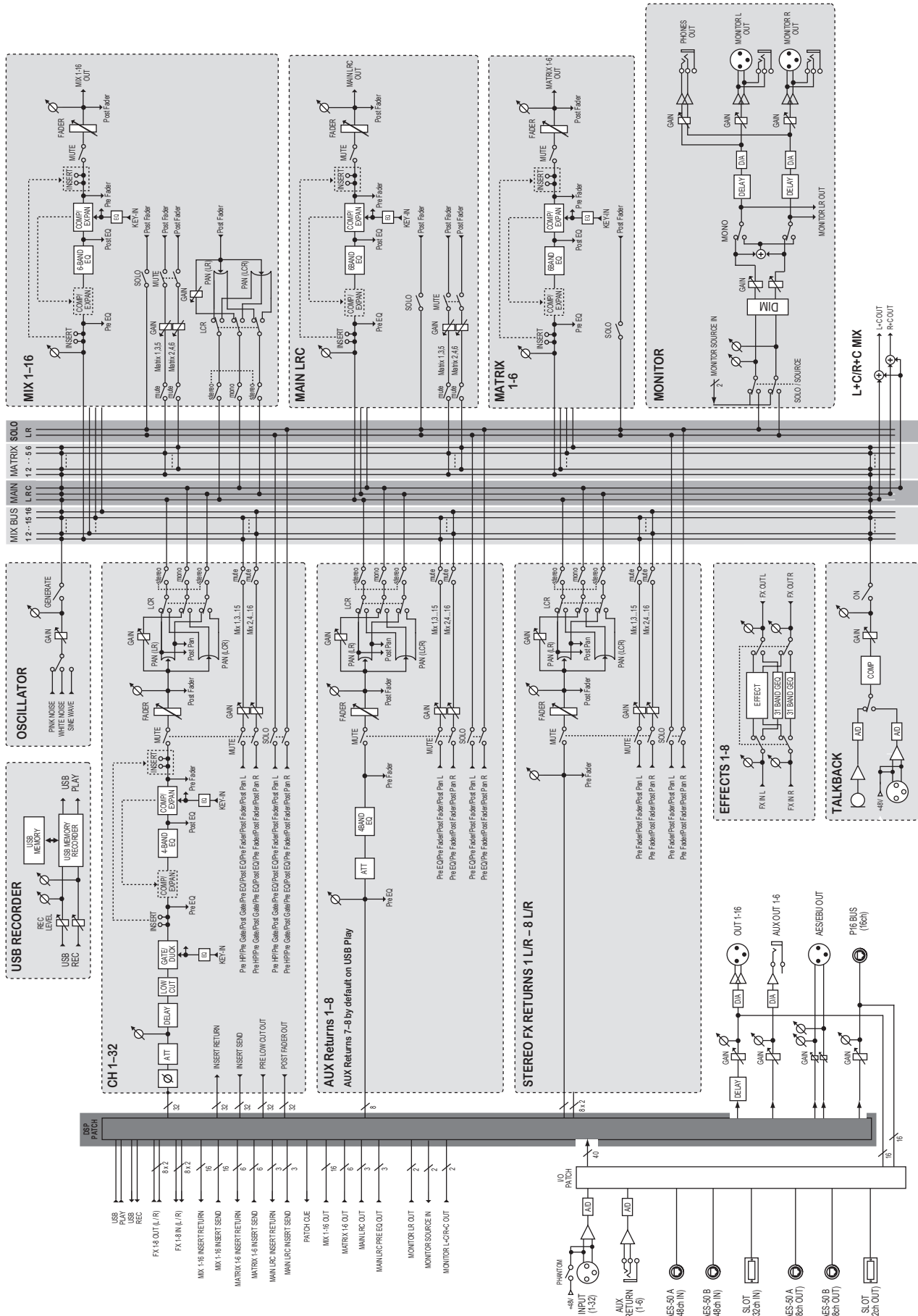
注意: X32 は意図せぬ操作を避けるため Setup/Global ページにロック機能の 'Lock Console' 項目が設けられています。この状態ではディスプレイに "X" が表示されユーザーインターフェイスはどんな変更も許可しません。しかしながら HOME ボタンを 5 秒間押し続けることにより X32 をロックを解除することができます。

X32 のファームウェアは、簡単に以下の手順によって更新することができます。

- USB ドライブのルート上に X32 の製品ページから新しいコンソールファームウェアをダウンロードします
- コンソールの電源がオフになっている間に、トップパネルの USB コネクタに USB メモリを差し込みます
- コンソールのスイッチを入れてください。起動時に X32 は完全自動でファームウェアのアップデートを実行します。これには通常の起動より 2-3 分長くかかります

注意: X32-キャビネットの最下部のファン開口部をふさがないでください。大型の低速回転ファンはほとんど音はしませんが確実に動作しています。特にハードケース等に X32 をマウントするときには空気の流れを確保にするために下には十分なスペースを空けてください。

ブロック図



技術仕様

処理	
入力処理チャンネルの数	32 入力チャンネル、8 aux チャンネル、8 fx リターンチャンネル
内部エフェクトエンジン、トゥールーステレオ/モノラル	8/16
内部トータルリコールシーン (プリアンプとフェーダーを含む)	100
信号処理	40 ビット浮動小数点
A / DD / A 変換	24 ビット @ 44.1 / 48 kHz、114 dB ダイナミックレンジ 24 ビット @ 44.1 / 48 kHz、114 dB ダイナミックレンジ
I / O レイテンシ (コンソール入力から出力)	0.8 ミリ秒
ネットワーク遅延 (ステージボックス入力>コンソール>ステージボックス出力)	1.1 ミリ秒

コネクタ		
Midas によって設計された XLR 入力、プログラム可能なマイクプリアンプ	32	
トークバックマイク入力、XLR	1	
RCA 入力/出力	2/2	
XLR 出力	16	
モニタリング出力 XLR / ¼" TRS バランス	2/2	
補助入力/出力、¼" TRS バランス	6/6	
電話出力、¼" TRS	2 (ステレオ)	
デジタル AES / EBU 出力、XLR	1	
AES50 ポート、SuperMAC、NEUTRIK etherCON	2	
拡張カード	32 チャンネルオーディオ入出力、さまざまな規格	
P-16 コネクタ、Ultraset (電源なし)	1	
MIDI 入力/出力	1/1	
USB タイプ A、トップパネル、オーディオおよびデータのエクスポート/インポート用	1	
USB タイプ B、背面パネル、リモコン用	1	
イーサネット、RJ45、背面パネル、リモコン用	1	

マイク入力特性		
設計		Midas
THD + ノイズ、20 dB ゲイン、0 dBu 出力	<0.006% A 加重	
入力インピーダンス XLR、アンバル。/ バル。	5 kΩ / 10 kΩ	
非クリップ最大入力レベル、XLR	+23 dBu	
ファンタム電源、入力ごとに切り替え可能	48 V	
等価入力ノイズレベル、XLR (入力短絡)	-128 dBu	
CMRR、XLR、@ 20 dB ゲイン (標準)	>70 dB	
CMRR、XLR、@ 40 dB ゲイン	>80 dB	

入出力特性	
周波数範囲、@ 48 kHz サンプルレート、0 dB~-1 dB	10 Hz - 22 kHz
ダイナミックレンジ アナログ入力からアナログ出力 (標準)	106 dB
A/D ダイナミックレンジ、プリアンプ、コンバーター (標準)	109 dB
D/A ダイナミックレンジ、コンバーター、出力	108 dB
クロストーク除去 @ 1 kHz、隣接チャンネル	100 dB
出力レベル、XLR、公称 / 最大	+4 dBu / +21 dBu
出力インピーダンス、XLR、アンバル。 / バル。	75 Ω / 75 Ω
入力インピーダンス TRS、アンバル。 / バル。	20 kΩ / 40 kΩ
非クリップ最大入力レベル、TRS	+16 dBu
公称出力レベル、TRS	+4 dBu / +16 dBu
出力インピーダンス、TRS、アンバル。 / バル。	150 Ω / 300 Ω
電話の出力インピーダンス / レベル	40 Ω / + 25 dBm (ステレオ)
残留ノイズレベル、XLR および TRS	-87 dBuA 加重
表示	
メインスクリーン	7", 800 x 480, 262 k カラー TFT
チャンネル液晶画面	128 x 64, RGB カラーバックライト付き LCD
メインメーター	24 セグメント (クリップまで -57 dB)
力	
スイッチモード電源	オートレンジ 100-240 V (50/60 Hz)
消費電力	120 W
物理的	
標準動作温度範囲	5°C – 40°C (41°F – 104°F)
寸法	900 x 528 x 200 mm (35.4 x 20.8 x 7.9")
重量	20.6 kg (45.4 lbs)

 警告

- ・ バッテリーを摂取しないでください、化学火傷の危険
- ・ この製品には、コイン/ボタン電池が含まれています。コイン/ボタン電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の火傷を負い、死亡する可能性があります。
- ・ 新品および使用済みの電池は子供から遠ざけてください。
- ・ バッテリーコンパートメントがしっかりと閉まらない場合は、製品の使用を中止し、子供から遠ざけてください。
- ・ 電池を飲み込んだり、体内に入れたりしたと思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・ バッテリーを間違ったタイプに交換すると、セーフガードが無効になる可能性があります。同じまたは同等のタイプとのみ交換してください!
- ・ 爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性のある非常に高温の周囲環境にバッテリーを放置する。そして
- ・ 非常に低い空気圧にさらされたバッテリーは、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。
- ・ バッテリー廃棄の環境的側面に注意を払う必要があります。

JP

その他の重要な情報

- 1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:**
ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230 V と 120 V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。
- 2. 故障:** Music Tribe デイラーがお客様のお近くにはないときは、musictribe.com の “Support” 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お 客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の “Support” 内にある “Online Support” でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。
- 3. 電源接続:** 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

We Hear You